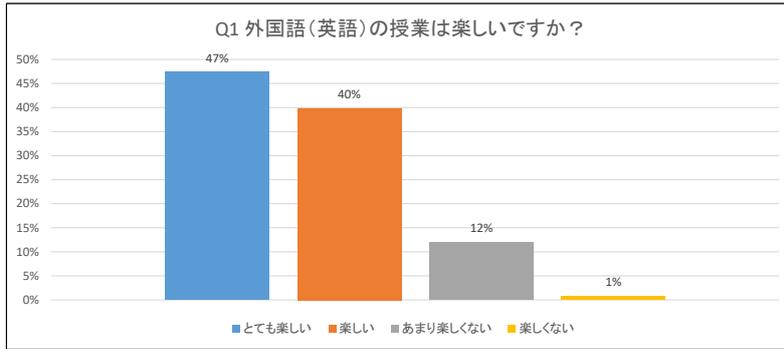
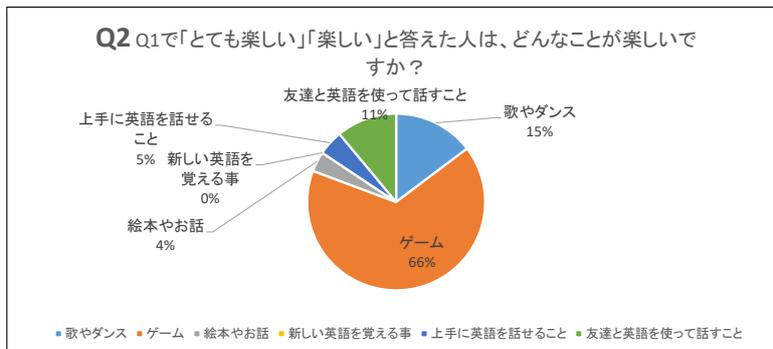


令和5年度外国語(英語)の授業に関する児童用アンケート調査結果の分析・考察(豊野小)



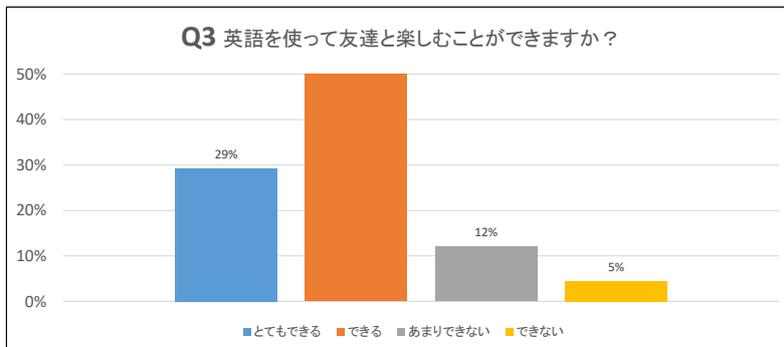
【Q1について】

「外国語(英語)の授業は楽しい」と答えた児童は、全体の87%である。「とても楽しい」と答えた児童は、昨年度に比べ7%増加している。
本校は、ALTの活用に加え、施設一体型小中一貫校の利点を最大限に生かし、中学校英語担当教諭の乗り入れ授業を5年生と6年生を対象に行っている。学級担任と連携を図りながら児童のサポートを手厚く行っていることが、児童の安心感、授業の楽しさに繋がっている。



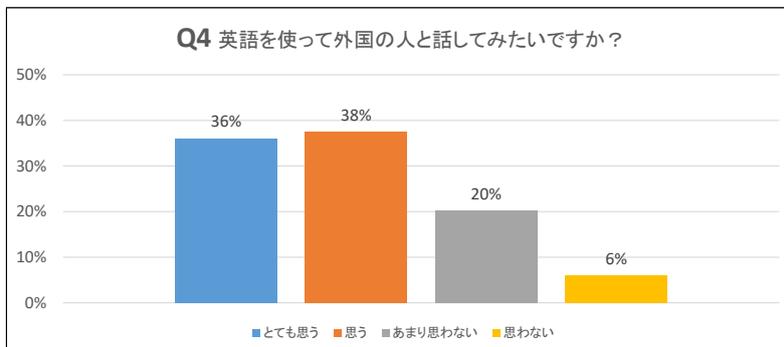
【Q2について】

「どんなことが楽しいか」については、外国語(英語)を使った「歌やダンス」「ゲーム」を挙げる児童が多い。昨年度と比べると、「歌やダンス」が10%増加、「友達と英語を使って話すこと」が8%増加している。
「歌やダンス」「ゲーム」を通して外国語活動の楽しさを実感できている。また、「友達と英語を使って話すこと」の増加は、単なる活動の楽しさにとどまらず、「英語を話せた」「伝えたいことが伝わった」という充実感を伴う楽しさを感じられる授業が増えてきていることが理由だと考える。



【Q3について】

多くの児童は、「英語を使って友達と楽しむことができる」と回答しているが、「あまりできない」「できない」と答えた児童が17%いる。
外国語(英語)が「楽しくない」と感じている児童が一定数いることから、外国語(英語)が嫌いな児童を増やさないよう、スモールステップでの目標設定、ペア学習等における教師のサポートを更に充実させ、児童一人一人の不安や抵抗感を取り除いていく必要がある。



【Q4について】

「英語を使って外国の人と話してみたい」と思う児童が74%いる。これは、昨年度に比べ16%増加している。その分「あまり思わない」と思う児童が減っており、変化の大きい質問項目となった。
生活の中で外国の人と接することが少ない環境であるが、ALTと児童がふれあう場面を設定した授業、芸術鑑賞会で外国の演者とのふれあい、シンガポールの中学校との交流が児童の意欲を高めたのではないかと考えられる。今後もALTとのふれあいを大切に授業づくりに努めていく。

【保護者・学校関係者からの意見・要望等】

- 「楽しい」体験を充分経験させ、さらに一歩進め、自信を持って外国語(英語)を使った活動ができる児童を育てていきたい。
- 中学校英語に滑らかに接続するために、基本的な単語や表現について確実に身につけさせたい。
- 外国の人だけでなく、地域の人々にも積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけさせたい。

【考察・今後の展望等】

- 引き続きALTや中学校英語担当教諭と担任との連携を図り、児童一人一人が自信を持って学習に臨めるよう支援を行っていく。
- 児童に身につけさせたい表現を身近な生活と関連づけながら活動に取り入れるとともに適切な評価を行うことで、児童に「できた」という達成感を味わわせ、児童の意欲を高めていく。